

福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」

事業概要

人口減少や少子高齢化が進む地域では、担い手不足などにより、地域住民だけでは集落の活動を維持していくことが困難となることがあります。本事業は、福島県の集落が新しい視点や行動力・専門知識など「外からの力」を持つ大学生と集落が交流する中で、地域復興・活性化を図り、集落応援団を育成することを目的とした事業です。

獨協大学では、2024年度は、「集落自主活動に係る伴走支援事業」に「こまち『大地の泉』つながるプロジェクト」が、「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に新規で「大竹ゼミ昭和村班」、「地域活性化プロジェクト長外路チーム」、「地域活性化プロジェクト中谷地区チーム」の3グループが採択。すでに委託・補助金事業を卒業している「大竹ゼミ耻風班」、「セガワ応援隊」、「ほんそんみらいプロジェクト」も現地で活動を続けています

大竹ゼミ耻風班(南会津町耻風地区担当)

「大竹ゼミ耻風班」は2017年に本事業に採択され、事業が終了した現在も地域の方々と交流しています。

夏休みには耻風地区のトマト農家に泊まり込みでアルバイトをして、生産者の苦勞や工夫を肌で感じるとともに、農業の現状や課題を学びました。また、耻風地区と共同で、現地の収穫祭「伊南川あゆまつり」に参加し、耻風地区の特産品のそば粉を使用したそば粉プリーや地元産のきのこを販売し、地元住民との交流を図りました。

さらに「草加ふささら祭り」や「Earth Week Dokkyo」で地区のPRや農産物の販売も実施。今年度の活動を通じて、地域との連携が強化されたが、資金確保や持続可能な運営体制の構築が課題となりました。今後は、地域の魅力を発信しつつ、学生と地域の方々が互いにメリットとなりうる仕組みを整え活動の継続と発展を目指していきます。



▲伊南川あゆまつりの様子



▲そば粉プリー

ほんそんみらいプロジェクト(喜多方市高郷町本村地区)

「ほんそんみらいプロジェクト」は、2018年に採択され、2024年時点で7年目となります。

2024年度は計4回の現地活動実施。活動内容は1年を通して自分たちで田植えをして、稲を刈り、11月の収穫感謝祭で自分たちが育てたお米をお餅にして集落の人と一緒に食べ、交流を図りました。その他にも集落の方とフットパスやフットパスコースの整備、ピザづくり体験、BBQなども行いました。今年度の活動では、新たに4名の学生が本村に訪問し、関係人口を広げることができました。今後も多くの学生に地区の魅力を伝え、継続的に関わりを持っていくように努めていきたいと考えています。



▲稲刈り体験



▲フットパスコース整備の様子

セガワ応援隊(田村市船引町瀬川地区)

「セガワ応援隊」は2017～2023年度に大学生事業として活動し、2024年度は瀬川地区の有志団体「やってみっ会」が申請した福島県サポート事業に協力し、現地活動実施。一般社団法人 Switch にも支援いただきました。

今年度は14名の学生が現地に入り、11月には「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」での販売をお手伝いしました。

12月には、瀬川地区住民センターにて「やってみっ会」主催の地域づくりを考える「持続可能な地域づくりシンポジウム」に参加。講演やパネルディスカッション、地域づくりワークショップでは、学生と瀬川地区の魅力や課題を話し合いました。住民からは、廃校の学校の利活用としてワーキングスペースの設置や農作物加工場にする案が出ました。今後も瀬川地区の持続可能な発展のために、尽力していきたいと思ひます。



▲地域づくりワークショップの様子



大竹ゼミ昭和村班(昭和村松山集落)

「大竹ゼミ昭和村班」は、12名からなるチームで、本年度から昭和村松山集落での活動を開始し、8月と1月の2回の現地活動を実施しました。

1回目の現地活動は8名が参加し、昭和村の魅力を伝え、地域活性化を目指すことを目的に、地域の方々と交流を中心に周辺地域の自然環境や主要な産業について調査を行いました。県外から移住し、かすみ草農家を始めた方や、昭和村のからむし織を学ぶ、からむし織体験生(織姫・彦星と呼ばれる)にお話を伺いました。県や村の制度が充実し意志があれば農家を始めやすい環境が整っています。調査の成果としては、初年度ということで昭和村松山集落について知り、地域の方々と信頼関係を築くことができました。

2回目の現地調査で調査状況の報告と雪かきなど実施しました。来年度は魅力を発信していくとともに、地域振興プランを作成することを目標に活動していきます。



▲カスミノウ農家さんの説明を聞く



▲地域の方との交流会

地域活性化プロジェクト中谷チーム(石川町中谷地区)

「地域活性化プロジェクト中谷チーム」は石川町中谷地区で今年度から活動を開始し、10月と11月に2度の現地調査を実施しました。

1回目は、地域の文化祭イベントの設営のお手伝いや山葡萄栽培を行う方と、買い物支援団体の方に活動内容や町への想いを伺いました。夜は廃校を利活用した「ひとくらす」に宿泊しました。2日目にはさつまいも収穫体験を行い、収穫したさつまいもを焼き芋やマフィン、スコーンに調理し学内イベント「Earth Week Dokkyo」で販売しました。



▲さつまいも収穫体験の様子



▲堂平ガーデンでの集合写真

2回目は、歴史資料館の「イシニクル」や石川町のお祭り「八槻市」に訪問しました。古民家を農伯施設・キャンプ場に改修した「堂平ガーデン」に宿泊し、施設見学や植樹体験を経験。お弁当販売を行うNPO法人「食彩あすか」さんのヒアリングも行いました。最終活動として、地域関係者と振り返りワークショップを開きました。今後、現地調査から得た課題や意見を踏まえて、具体的な取り組みを行います。

こまち「大地の泉」つながるプロジェクト(小野町谷津作行政区)

こまち「大地の泉」つながるプロジェクトは2019年に始まり、2024年度で5年目を迎えます。

今年度は2度の現地訪問を実施。1回目は新規メンバーとともに「大地の泉」の現状確認、あぶくまキャンランドや東堂山の羅漢像などの観光地を視察し、現地の方との交流を通して神輿祭りについての概要を決め、地域住民のつながりを強固にするには何が必要かを考える機会になりました。また、源泉の活用の第一歩として地域の方と共に温泉卵の試作と足湯の体験を実施し、現地の方と学生の両方から好評でした。



▲八雲神社例大祭の様子



▲ビンゴ大会の様子

2回目の現地調査では「八雲神社例大祭」(子ども神輿)に参加し、祭事や子ども神輿、神輿の後にビンゴ大会を実施しました。実際にまちの行事に参加し、多くの現地の方と交流し、まちの行事の大切さを知ることのできる貴重な機会になりました。1年を振り返り「大地の泉」を活用した活動を実施できたこと、2年連続で祭りに関わり現地の方からの認知を得ることができ、まちとのつながりを実感できたことが大きな成果となりました。

地域活性化プロジェクト長外路チーム(田村市船引町長外路地区)

田村市船引町長外路地区を担当する「獨協大学地域活性化プロジェクト長外路チーム」は9名からなり、今年度初めて採択を受け、2回に渡って現地調査を実施しました。

1回目の現地調査では「薪の里ながとろ」を視察し、長外路地区では薪資源が豊富であり、自然を囲んだアウトドア体験が魅力だと感じました。また、「ムシムシランド」では昆虫採集や標本づくりの体験、ピオトブ講習を受け、生態系保全の重要性を学びました。また、地域おこし協力隊の方の講和を聞き、地域の課題や可能性についての理解を深めました。



▲「ムシムシランド」での標本づくりの様子



▲長外路城再生ワークショップ後の集合写真

2回目の現地調査では自主防災組織避難訓練活動に参加し、地域の方々と関係構築。その後、長外路城再生ワークショップに参加し、地域資源を活用する可能性を探りました。

初年度である今年、豊かな自然と地域の方々の温かさを魅力だと感じた一方で、人口減少や観光施設の知名度が低いことが課題であり、今後はワークショップを通じて交流人口の増加と観光施設の認知向上につなげていきたいと考えています。